

平成 22 年 6 月 11 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19520456

研究課題名 (和文) 日本語・日本文化研修留学生教育に関する全国的調査研究

研究課題名 (英文) A Nation-wide Survey Based Study on the Japanese Studies Students' Education

研究代表者

森 真理子 (MORI MARIKO)

京都大学・国際交流センター・教授

研究者番号：30230080

研究成果の概要 (和文)：

全国の日本語・日本文化研修留学生 (日研生) 受入れ大学に対して実施した 2007 年修了時アンケート調査を分析し、日研生の学習・生活実態を明らかにした。同時に 9 大学への学生・教員への聞き取り調査によって、実態をより具体的に把握した。さらにアンケート分析から重要と考えられる項目を割り出し、1) 研修過程で獲得する日本語技能 2) 修了研究をいかに進路に生かすかを分析することにより、日研生教育で必要とされる学習項目を抽出し教育モデル案を提示した。

研究成果の概要 (英文)：

This research project reveals about the education and the student life of Japanese Studies Students (Nikkensei), through a nation-wide questionnaire survey carried out in the year 2007, having as its subjects students completing their yearly program. Interview surveys to the teaching staff as well as Nikkensei students of nine universities reinforced the above mentioned survey, revealing further details. Furthermore, by careful selection of essential factors unveiled by the questionnaire survey and by analyzing in particular, 1) Japanese language skills acquired through coursework, 2) the effects completion research has on future carriers, we revealed the subjects essential to a curriculum designed for Nikkensei students, as well as proposing an educational model for the Nikkensei program.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：国費留学生・日本語・日本文化・教育制度・調査

1. 研究開始当初の背景

国費留学制度としての日研究生プログラムは26年前の発足以来、世界各国からの中・上級日本語学習者に対して日本語、日本社会・文化に対する教育研修を提供しつつ、日本の大学院に進学するリピーター輩出や親日家育成に重要な役割を果たしてきた。この制度による年間の奨学金受給者数は約380名であり、現在大凡57大学が日研究生の受け入れを行っている。

しかしながら、日研究生の学習ニーズや全国で行われている教育の実態、帰国後の進路などを体系的に明らかにした調査研究は全くといっていいほどなされてこなかった。

日研究生に対して実施する教育の内容は原則として受け入れ大学に一任されており、受け入れ大学によって、受け入れの規模も教育内容も実施形態も様々である。このような全国の多様な教育形態が日研究生のニーズにどのように応えているのか、日研究生を対象にしたカリキュラムの中核をなす部分とは何かなどについて全国的な視点で検証する必要性が迫られていた。更に、受け入れ留学制度の多様化という背景の下で、日研究生プログラムを特徴付ける「日本との将来の関わり」ということの持つ意義を客観的に検証することが以前にも増して重要になってきていた。

全国レベルでの調査研究の一刻も早い実施が求められている以上のような状況の下で本研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、

- (1) 全国における日研究生教育、とりわけ日本語教育、日本文化教育、修了研究指導の実態を把握すること
- (2) 日研究生の生活実態を明らかにすること
- (3) 日研究生の学習ニーズを体系的に明らかにし、〈日研究生像〉を抽出すること
- (4) 学習ニーズを基に日研究生のタイプ分けを行い、タイプとの関わりの中で日研究生教育のあり方を検討すること
- (5) 渡日前の事前段階、学習段階、修了時段階及び修了後の段階の各段階におけるニーズを比較し、日研究生のニーズの成熟過程を分析すること
- (6) 日研究生を対象にしたカリキュラムに必要な項目を割り出し、教育のモデルを提案すること

(7) 学生によるプログラムに対する評価を分析することを通して日研究生教育の成果及び課題を明らかにすることである。

3. 研究の方法

日研究生の教育・生活実態及び学習ニーズを明らかにするために全国の修了時の日研究生に対するアンケート調査を実施した。同調査によって得られた全国の日研究生のデータを基に綿密なニーズ分析を行いながら、日研究生の一般的なニーズ、個別ニーズ、学習背景別のニーズ、受け入れ形態別のニーズなどについて分析を行った。

更に、アンケート調査では表面化しにくい具体的な実態をより詳細に把握するために9大学の日研究生及び担当教員に対して聞き取り調査を行った。担当者への聞き取り調査は教育を実施する側の視点を取り入れ、教育現場のニーズを把握するために重要であった。一方、日研究生に対する聞き取り調査は、プログラムの成果や課題を明らかにするために必要な情報を収集する上で有用であった。

また、研修修了後の視点から日研究生教育の意義付けを行いながら、その視点でのニーズをも把握することを目的に修了生に対する聞き取り調査及びe-mailを用いたアンケート調査を実施した。

4. 研究成果

研究の成果は次の3点にまとめられる。

(1) 日本語日本文化研修留学生 2007 年修了時アンケート調査

- ① 平成19(2007)年7月～9月に全国の日研究生受入れ大学に対し修了時日研究生に対するアンケート調査を実施した。全日研究生を対象とする実態調査は全国初の試みである。その結果205名の回答を得た。
- ② アンケート項目は、Ⅰ学生情報、Ⅱ事前の情報入手、留学の動機及び事前学習、Ⅲ学習内容と成果、Ⅳ生活環境及び地域などとの交流、Ⅴ母国大学、Ⅵ進路、Ⅶ総合評価と満足度の7項目にわたり、日研究生の渡日前から帰国後までを網羅する項目である。
- ③ 調査項目を精査することによって、母国で2～3年の日本語・日本文化

教育を受けた日研究生が一年間の研修課程で獲得する教育内容、日本における生活実態、満足度などから、日研究生教育の成果、改善点が明らかになった。

- ④ 以上の成果を、『日本語・日本文化研修プログラム 2007年修了時全国アンケート調査報告書(pp1-140)』として2008年3月に刊行した。

(2)日本語日本文化研修教育実態聞き取り調査

- ① 聞き取り調査は、2007年修了時日研究生と日本滞在中の現日研究生及び日研究生担当教員他担当職員を対象としたものである。
- ② この調査では、受入れ形態の異なる9大学を対象とし、各大学に共通する教育、特色を生かした教育、現在課題と考えている点などについて聞き取りを行なった。その結果、アンケート調査の数字だけでは見えにくい教育の実態と生の情報が得られた。

(3)アンケートから見えてくる日研究生の学習ニーズ分析

- ① 日本語日本文化研修の一年間、特に修了論文を作成する過程で、学生がどのような日本語技能を獲得するかを分析した。
- ② 日研究生には日本に対する知見を深め、研修後日本をフィールドに活躍する人材が多いことに着目し、研修期間中日本文化・社会および言語等などの分野に関心を持ち、その関心を自分の将来の進路につなぎ、生かすのかを日研究生の修了研究テーマ選択を基に分析した。さらに、修了研究のテーマを切り口にしながら、日本に対する関心が学習と共にどのような専門的な発展を見せるかを分析した。
- ③ 日本語・日本文化研修生の学習ニーズを体系的に明らかにすることを目的に、渡日前の学習事前段階、日本での学習段階、教育課程を終える修了段階に大別し、詳細に分析した。とりわけ、学習ニーズの成熟の過程に着目し、日本に対して初歩的な関心を持ち始めた動機から修了段階に至るまでの、日研究生の日本に対する関心や学習希望分野について検討した。
- ④ アンケート調査の個別データの段階別の推移及び日研究生に対するケーススタディ等を用いて、学習ニーズの成熟のあり方を分析し、ニーズを基にした日研究生のタイプ分けを行った。

- ⑤ 修了生に対する追跡調査や日本在住の修了生に対する聞き取り調査を実施し、修了後の段階である進路という視点からも、上述の研究結果を検討した。その上で、上述した分野別学習ニーズや日研究生のタイプ分けを元に日研究生教育に含まれるべき学習項目を抽出し、教育モデルの一案を提示した。

- ⑥ 上述の研究成果を『日本語・日本文化研修留学生教育に関する全国的調査報告書(pp.1-134)』として平成22(2010)年3月に刊行した。留学生教育に関わる、全国レベルでの渡日前から帰国後に渡る学習ニーズと成果に関する一貫した研究は管見では存在しておらず、本研究の成果は日研究生教育のあり方を検討するための資料及び国費留学制度の意義を示す資料として有益である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① パリハワダナ ルチラ、「日研究生の修了研究の取組みと可能性—修了研究・課題を通じた技能習得—」『第8回日研究生教育改善研究会報告書』9-17頁、(2010, 3) 査読無
- ② 森真理子、「修了研究から見えてくる日研究生のニーズ—日研究生の修了研究の取組みと可能性—ケーススタディ(京都大学)」『第8回日研究生教育改善研究会報告書』3-8頁、(2010, 3) 査読無
- ③ 森真理子、「修了時日研究生アンケートを基にした修了研究・課題及び進路に関する検討」『第7回日研究生教育改善研究会報告書』3-13頁(2009, 3) 査読無
- ④ パリハワダナ ルチラ、「全国修了生に対するアンケート調査から見えてくる日研究生教育の課題と成果—日本語及び日本文化学習に関する検討」『第7回日研究生教育改善研究会報告書』14-26頁(2009, 3) 査読無
- ⑤ 森真理子、パリハワダナ ルチラ、平尾得子、「日本語日本文化研修プログラム修了生に対する合同調査から見えてくる日研究生教育の成果と課題」『第6回日研究生教育改善研究会報告書』3-16頁(2008, 3) 査読無

[学会発表] (計5件)

- ① パリハワダナ ルチラ「事前段階における日研究生のニーズ」日研究生教育改善研究会(2010, 3, 5) 金沢大学

- ② 森 真理子「修了段階における日研生のニーズ」日研究生教育改善研究会(2010, 3, 5) 金沢大学
- ③ パリハワダナ ルチラ「日研生の修了研究の取り組みと可能性－修了研究を通じた技能習得」日研究生教育改善研究会(2009, 3, 7) 金沢大学
- ④ 森 真理子「日研生の修了研究の取り組みと可能性－研究テーマから見えてくるもの－」日研究生教育改善研究会(2009, 3, 7) 金沢大学
- ⑤ 森真理子・パリハワダナ ルチラ「全国修了生に対するアンケートから見えてくる日研究生教育の課題と成果」日研究生教育改善研究会(2008, 3, 7) 金沢大学

〔図書〕(計2件)

- ① 『日本語・日本文化研修留学生教育に関する全国的研究調査報告書』134頁
(執筆編集：森真理子、パリハワダナ ルチラ・平成22(2010)年3月・発行所：石田大成社)
- ② 『日本語・日本文化研修プログラム2007年修了時全国アンケート調査報告書』140頁(執筆編集：森真理子、パリハワダナ ルチラ、平尾得子・平成20(2008)年3月・発行所：石田大成社)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森 真理子 (MORI MARIKO)
京都大学・国際交流センター・教授
研究者番号：30230080

(2) 研究分担者

パリハワダナ ルチラ (PALIHAWADANA RUCHIRA)
金沢大学・留学生センター・准教授
研究者番号：50303318

平尾 得子 (HIRAO TOKUKO)
大阪大学・日本語日本文化教育センター・准教授
研究者番号：90263350